

3501 住江織物

吉川 一三 (ヨシカワ イチゾウ)

住江織物株式会社社会長兼社長

海外受注好調も、円高影響と販管費増加により減収減益

◆2017年5月期第2四半期決算の概要

当四半期の業績は、売上高 473 億 34 百万円(前年同期比 3.1%減)、営業利益 80 百万円(同 93.7%減)、経常利益 1 億 96 百万円(同 87.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益 23 百万円(同 96.9%減)となった。営業利益以下いずれの段階損益においても減益となったものの、売上総利益率は 20.2%(前年同期 19.2%)に上昇している。

売上は、為替の円高進行により前年同期比 15 億 28 百万円減となった。前年同期の期中平均為替レートの 1ドル 121.73 円に対して当四半期は 105.74 円で、円高による目減りは約 24 億 50 百万円となった。利益面では、米国子会社 Suminoe Textile of America Corporation(以下 STA という)の会計処理問題の再発防止に向けた対策費用および生産性の改善費用、本社ビル耐震工事に伴う事務所の移転費用や物流センターの移設費用などが発生したことに加え、持分法による投資利益や不動産賃貸料の減少などがあり、減益となった。

期初予想に対しては、売上高は 65 百万円届かなかったが、営業利益は 1 億 37 百万円、経常利益は 1 億 62 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は 1 億 63 百万円上回った。

◆セグメント別業績

インテリア事業の売上高は 170 億 86 百万円(前年同期比 2.7%減)、営業利益は 2 億 63 百万円(同 7.6%減)となった。

オフィスビルや商業施設、ホテル向けの業務用カーペットは、堅実に物件を受注したものの大型物件が少なく、売上は前年同期を下回った。環境にやさしい水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS(エコス)」は海外輸出が堅調に推移した。一般家庭向けカーペット、ラグ・マットについては、個人消費に足踏みがみられ、温暖だった気候の影響もあって、売上は前年同期を下回った。カーテンでは「U Life(ユーライフ)Vol.8」や「Face」が好調を維持し、7月に「mode S(モードエス)Vol.8」を新たに発売したものの、売上は前年同期を下回った。壁紙は、「ルノンホーム」、量産タイプの「ルノン・マークII」がともに苦戦した。

自動車・車両内装事業の売上高は 272 億 56 百万円(前年同期比 2.3%減)、営業利益は 15 億 10 百万円(同 12.7%増)となった。為替影響はほとんど当セグメントで発生しており、前年同期のレート換算では増収増益を達成している。

自動車内装事業において、当社は、フロアカーペット、シート地、天井表皮材等、自動車内装材のトータルサプライヤーとしての強みを発揮している。海外事業での新規車種の受注が好調に推移し、新規商材と新規部位の受注拡大も進んだが、円高により減収となった。営業利益は、STA の事業の安定化と収支の改善を進める一方、タイとインドでの売上拡大と原価低減が奏功し、メキシコではニードルパンチカーペットの製造ラインが本格稼働したことなどから前年同期を上回った。

車両内装事業では、鉄道、バス、航空機、船舶にシート地やカーペット、リサイクル性に優れたシートクッション

材「スミキューブ」等を販売している。鉄道向けは、新規大型案件はなかったものの、新車の継続案件と公営、民鉄のリニューアル改造工事が好調に推移し、売上を伸ばした。バス向けは、新車製造が好調を維持しており、オプション仕様による高付加価値商材の需要拡大と消耗部材の受注拡大により、売上、営業利益ともに大きく伸びた。航空機向けも、シート地の受注が好調に推移した。

機能資材事業では、ホットカーペット、独自の消臭加工技術によるフィルター等、新たな分野で事業を展開しており、売上高は 29 億 7 百万円(前年同期比 12.5%減)、営業利益は 1 億 56 百万円(同 25.4%減)となった。

ホットカーペットは前年同期を上回る受注となり、浴室向け床材も好調に推移し、いずれも増収増益となったが、消臭・フィルター関係は、空気清浄機やその他の暖房機向けフィルターが振るわずに減収減益となった。また、太陽光電池向けシリコンインゴットのスライス事業は、国内太陽光発電メーカーが減産となり、減収減益となった。

◆財務状況

貸借対照表においては、現預金が、インテリアやホットカーペット事業などの季節的要因による運転資金の増加から、前期末から 28 億 19 百万円減少し、51 億 11 百万円となった。売上債権は 7 億 91 百万円増の 235 億 59 百万円、たな卸資産は 1 億 79 百万円増の 156 億 23 百万円となっているが、これも季節的な要因による。借入金 は 7 億 23 百万円減の 162 億 35 百万円となった。

設備投資については、投下資本のリターンを重視した効率的な投資を基本方針とし、中期 3 カ年経営計画“Advance Ahead 2018”では 60 億円の投資を予定している。2年目に当たる 2017 年 5 月期では総額 37 億円を計画しており、内訳は北中米の生産設備に約 6 億円、アジア約 1 億 50 百万円、国内 29 億 50 百万円(本社ビル耐震工事約 11 億円を含む)である。

◆通期業績見通し

当四半期における業績はおおむね計画どおり推移しており、2016 年 10 月に発表した通期の業績予想に変更はない。売上高は 954 億円(前期 975 億 29 百万円)、営業利益 15 億 40 百万円(同 25 億 53 百万円)、経常利益 17 億 50 百万円(同 28 億 83 百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益 7 億 40 百万円(同 2 億 45 百万円)という計画である。

なお、2017 年 5 月期の配当については、中間で 3.5 円、期末で 3.5 円の合計 7 円を予定している。

◆STA の会計処理問題について

STA については、2015 年夏以降に一部車種の受注が急増し、生産ラインのトラブルから工程中のロスや品質不良、緊急輸送費用等で多額の追加費用が発生した。また、STA の基幹システムの運用不備や不適切な会計処理も判明し、過年度にわたり在庫の評価減等を行った。

決算上の影響としては、2016 年 5 月期および 2017 年 5 月期第 1 四半期の決算発表を延期、過去 5 年にわたって決算を修正した。影響額は 5 年合計で約 16 億 50 百万円のマイナスとなっている。

再発防止策として、企業風土改革、全社的な意識向上教育の実施、業績管理体制と子会社管理の見直し、STA のマネジメント体制の見直し、STA の在庫管理システムの見直し、内部統制の再構築を骨子とし、着実に対策を実施していく。

◆伝統技術の継承と新たな取り組み

当社は、綴織綴帳・綴通等を製造する丹後テクスタイルにおいて手織りの職人を有し、西陣織を製造する京都美術工芸所とともに伝統技術の継承を図っている。また、近年では、デジタルデータ化したデザイン画をもとにコンピュータ制御の電子ジャカード機で織り上げる、スミノエアート綴帳といった新たな綴帳づくりにも取り組んでいる。

今後もインテリア製品のパイオニアとして伝統技術の継承のみならず、次代を担う技術の開発にもチャレンジしていく。

また、新機事業として、血糖値の上昇抑制効果やアルコール悪酔い抑制効果を持つ柿ポリフェノールについて近畿大学と共同研究を行っている。柿ポリフェノールの機能性を活かした健康食品・サプリメントを開発中であり、2017年2月15日(水)～17日(金)にわたって東京ビッグサイトで開催される「健康博覧会 2017」に、柿渋タブレットを出展する。

◆ 質 疑 応 答 ◆

減益の原因となった費用の中身について詳しく教えてほしい。

STA の生産性改善については、従業員教育、生産設備の改良投資に相当額を投じている。また、本社ビルの耐震工事に伴う費用、大阪府松原市の土地を日本生命に賃貸するにあたり、同地にあった物流センターの移設費用等も発生した。これらに約 12 億円の費用がかかったが、大部分は一時的なものであり、下期以降には発生しない。

(平成 29 年 1 月 26 日・東京)

(平成 29 年 1 月 27 日・大阪)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://suminoe.jp/ir/setsumei/>